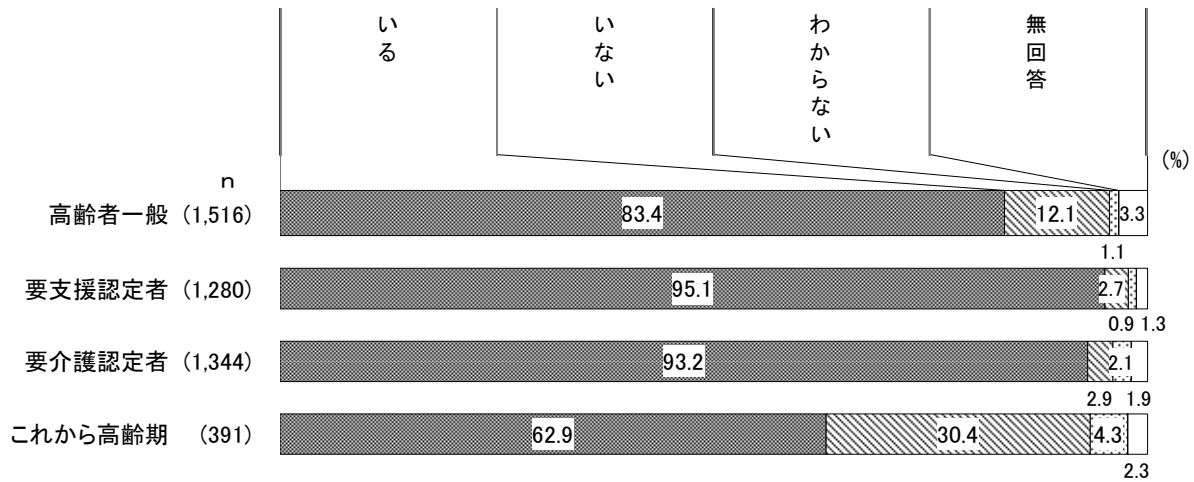


6. 医療・在宅療養

(1) かかりつけ医等の状況

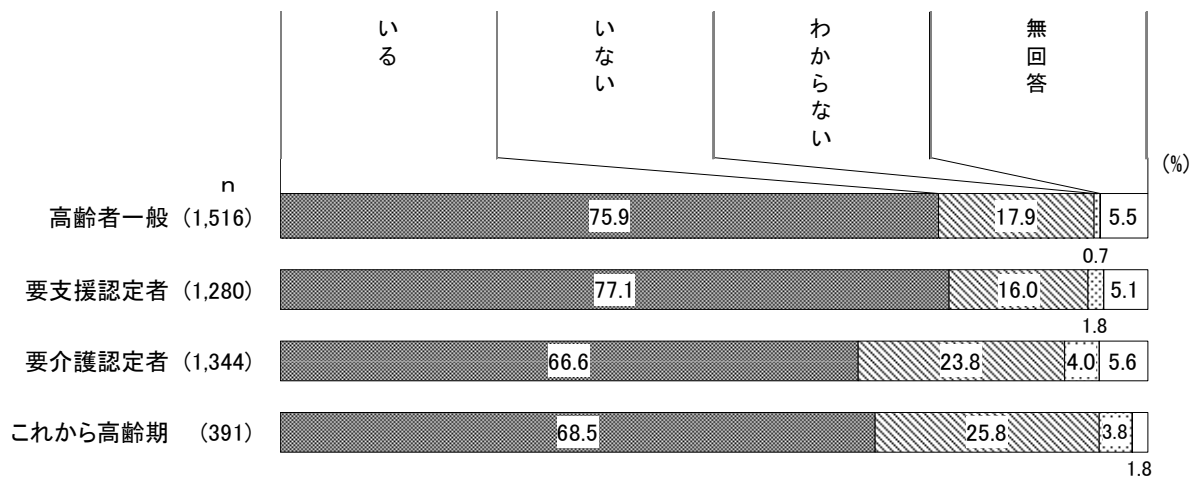
① かかりつけ医の有無

○「いる」は、高齢者一般で83.4%、要支援認定者で95.1%、要介護認定者で93.2%、これから高齢期で62.9%となっている。



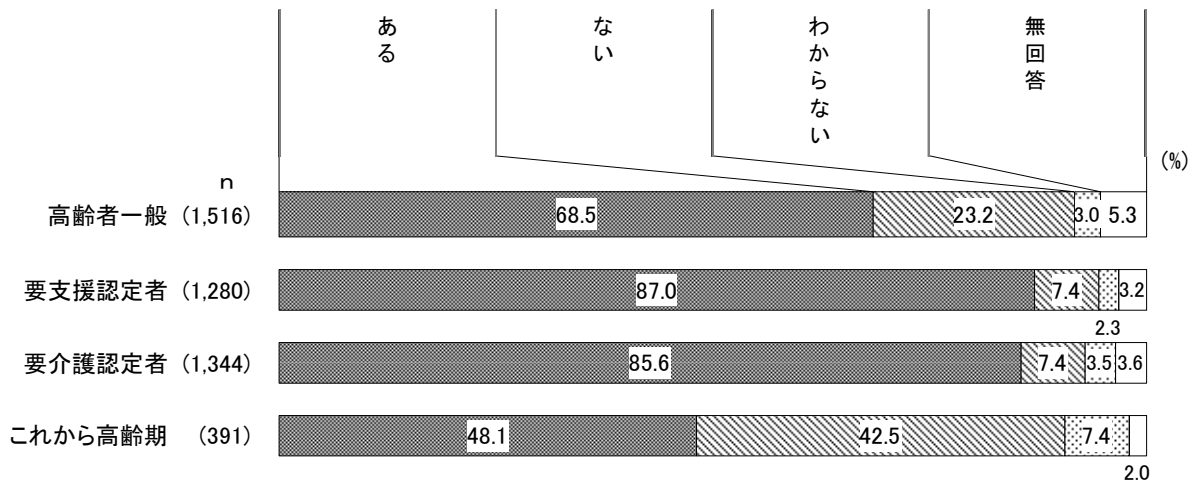
② かかりつけ歯科医の有無

○「いる」は、高齢者一般で75.9%、要支援認定者で77.1%、要介護認定者で66.6%、これから高齢期で68.5%となっている。



③かかりつけ薬局の有無

○「ある」は、高齢者一般で68.5%、要支援認定者で87.0%、要介護認定者で85.6%、これから高齢期で48.1%となっている。

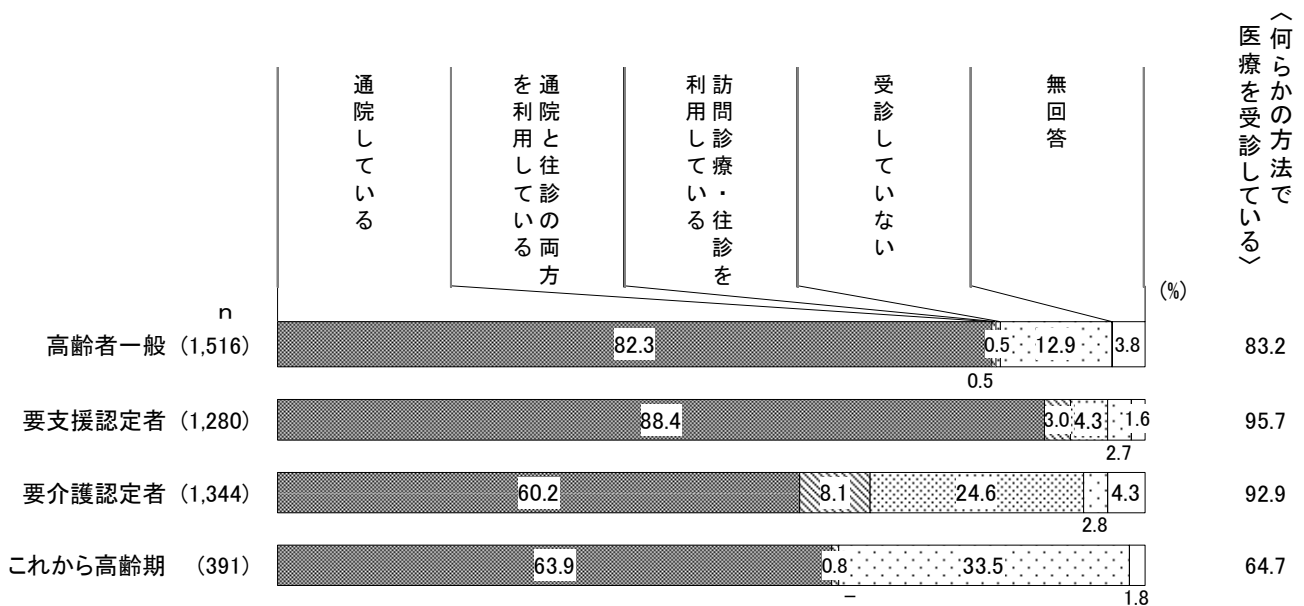


(2) 医療の受診状況

①医療の受診形態

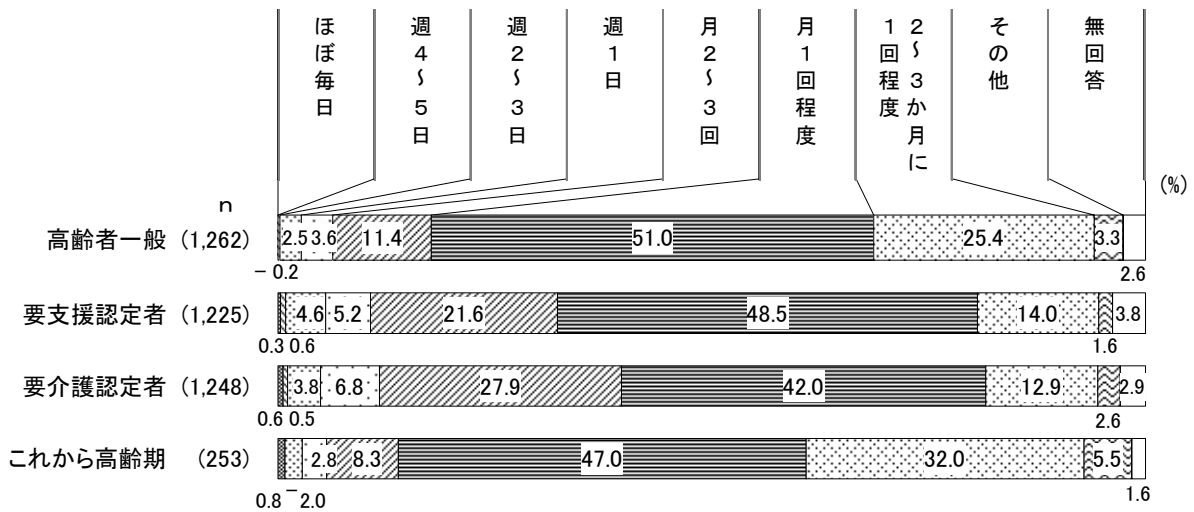
○“何らかの方法で医療を受診している”（「通院している」、「通院と往診の両方を利用している」、「訪問診療・往診を利用している」の合計）は、高齢者一般で83.2%、要支援認定者で95.7%、要介護認定者で92.9%、これから高齢期で64.7%となっている。

○「受診していない」は、高齢者一般で12.9%、これから高齢期で33.5%となっている。



②医療機関の受診頻度

○ “何らかの方法で医療を受診している” と回答した人の医療機関の受診頻度は、いずれの調査でも「月1回程度」が最も高く、4割超から5割超となっている。

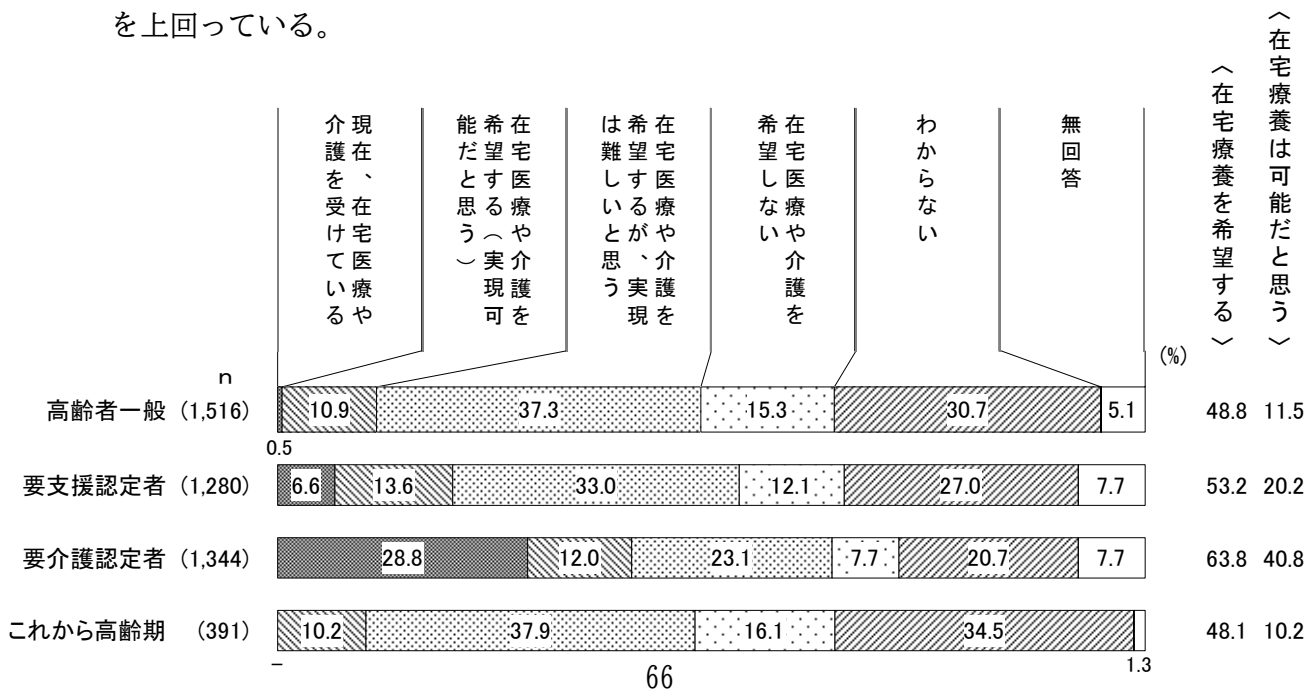


(3) 在宅療養

①在宅療養の希望と実現可能性

○脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期療養が必要になった場合、病院などへの入院・入所はしないで、自宅で生活したいかどうか聞いたところ、“在宅療養を希望する”（「現在、在宅医療や介護を受けている」、「在宅医療や介護を希望する（実現可能だと思う）」、「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」の合計）と回答した人は、高齢者一般で48.8%、要支援認定者で53.2%、要介護認定者で63.8%、これから高齢期で48.1%となっており、いずれの調査でも「在宅医療や介護を希望しない」を上回っている。

○ “在宅療養を希望する” と回答した人の在宅療養の実現可能性は、高齢者一般、要支援認定者、これから高齢期で “在宅療養は可能だと思う”（「現在、在宅医療や介護を受けている」と「在宅医療や介護を希望する（実現可能だと思う）」の合計）が「難しいと思う」を下回っている一方で、要介護認定者では、“在宅療養は可能だと思う”が「難しいと思う」を上回っている。

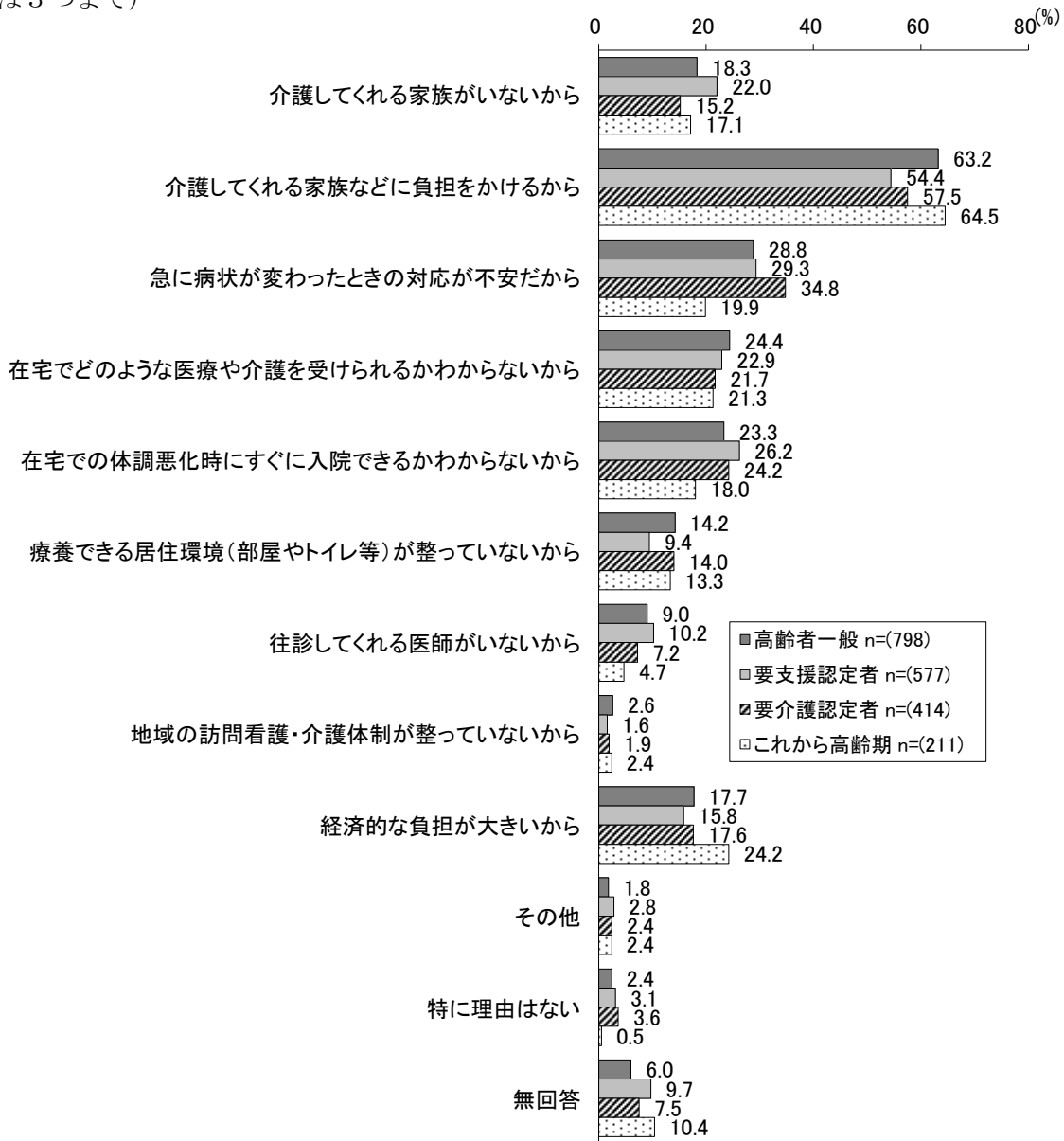


②在宅療養が難しいと思う理由

○在宅療養の希望で「在宅医療や介護を希望するが、実現は難しいと思う」、「在宅医療や介護を希望しない」と回答した人の理由は、いずれの調査でも「介護してくれる家族などに負担をかけるから」が最も高く、5割半ばから6割半ばとなっている。

○要介護認定者では、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が34.8%と他の調査と比べて高くなっている。

(○は3つまで)

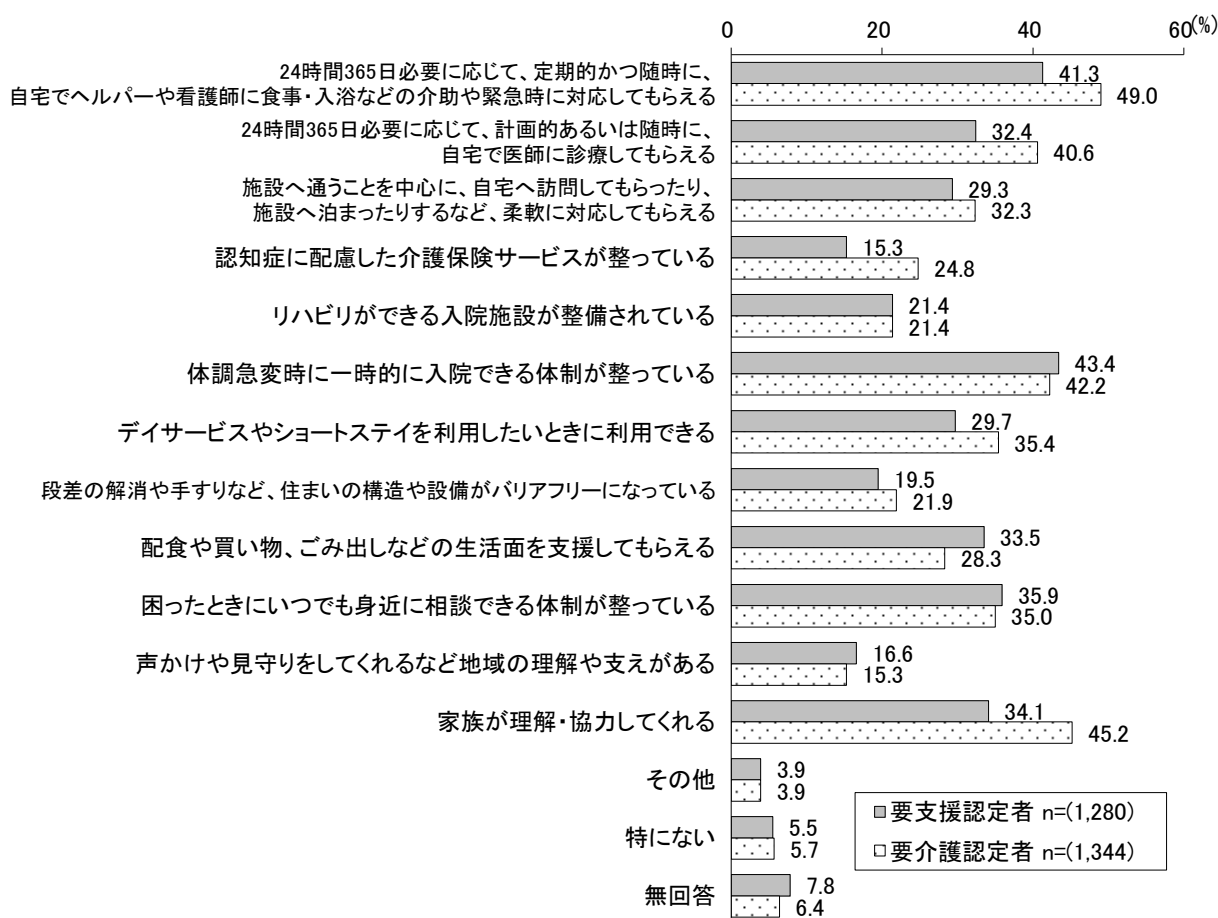


③在宅療養生活を継続するために必要なこと

○要支援認定者では、「体調急変時に一時的に入院できる体制が整っている」(43.4%)が最も高く、次いで「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」(41.3%)、「困ったときにいつでも身近に相談できる体制が整っている」(35.9%)の順となっている。

○要介護認定者では、「24時間365日必要に応じて、定期的かつ随時に、自宅でヘルパーや看護師に食事・入浴などの介助や緊急時に対応してもらえる」(49.0%)が最も高く、次いで「家族が理解・協力してくれる」(45.2%)、「体調急変時に一時的に入院できる体制が整っている」(42.2%)の順となっている。

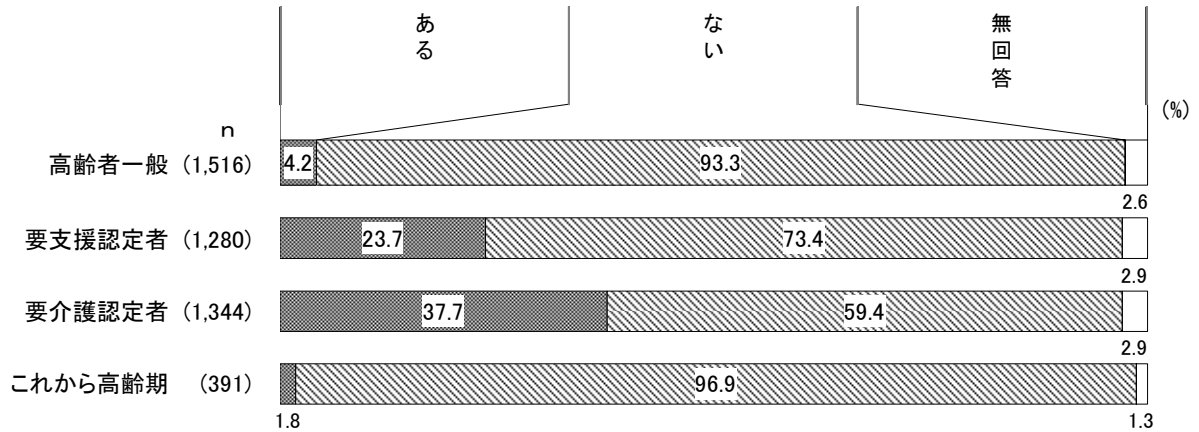
(複数回答)



(4) リハビリ療養

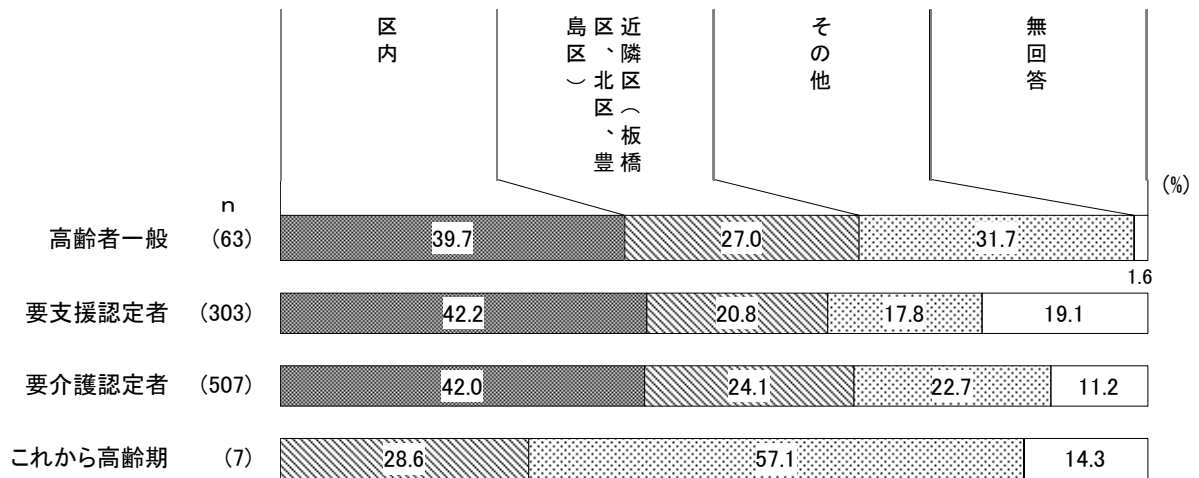
①リハビリ療養目的の入院の有無

○「ある」は、高齢者一般で4.2%、要支援認定者で23.7%、要介護認定者で37.7%、これから高齢期で1.8%となっている。



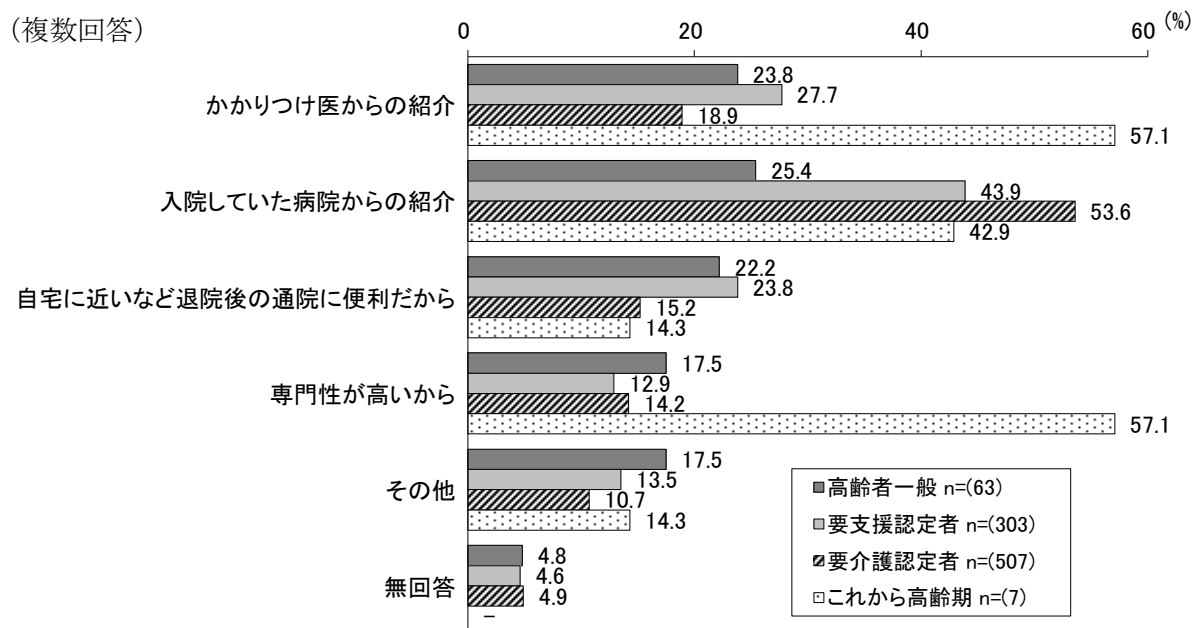
②リハビリ療養目的で入院した医療機関の所在地

○「区内」は、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者で約4割となっている。



③リハビリ療養目的で入院した医療機関の選択理由

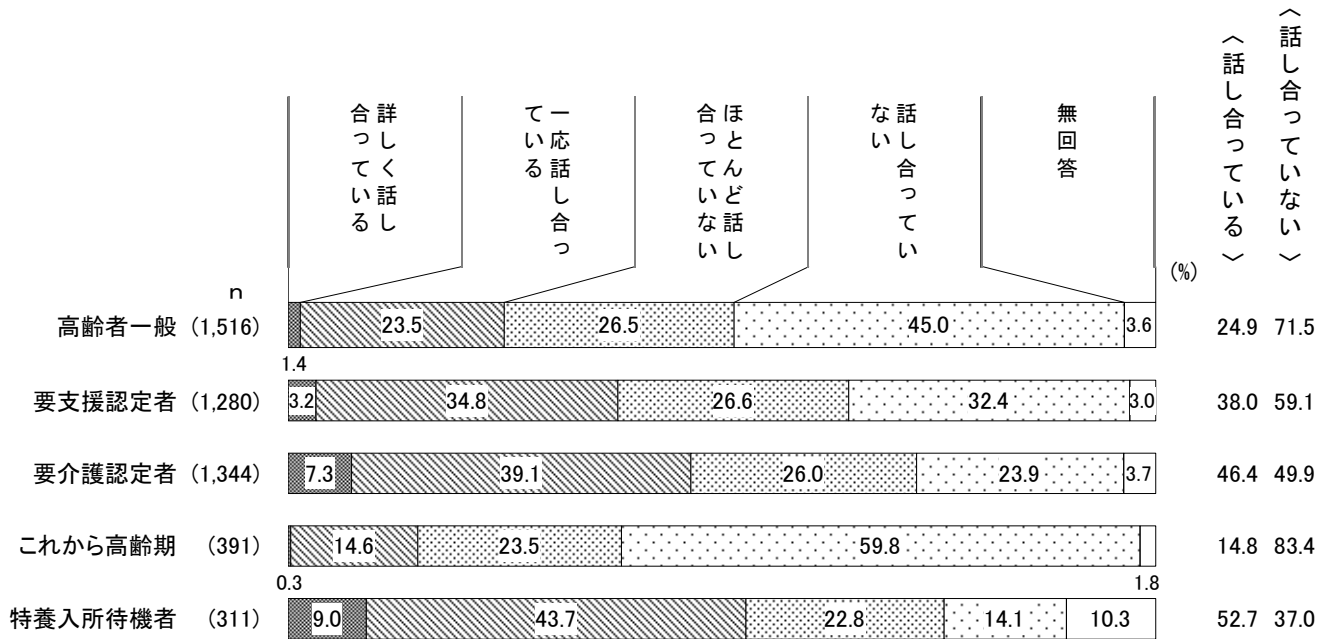
○高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者では、「入院していた病院からの紹介」が最も高く、それぞれ25.4%、43.9%、53.6%となっている。



(5) 人生の最終段階における医療・ケア

① 家族や医療・介護スタッフ等との話し合いの状況

○人生の最終段階における受たい医療・介護、受たくない医療・介護について、家族や医療・介護スタッフ等と話し合っているか聞いたところ、「話し合っている」（「詳しく話し合っている」と「一応話し合っている」の合計）と回答した人は、高齢者一般で24.9%、要支援認定者で38.0%、要介護認定者で46.4%、これから高齢期で14.8%、特養入所待機者で52.7%となっている。



[年代別 / 高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者]

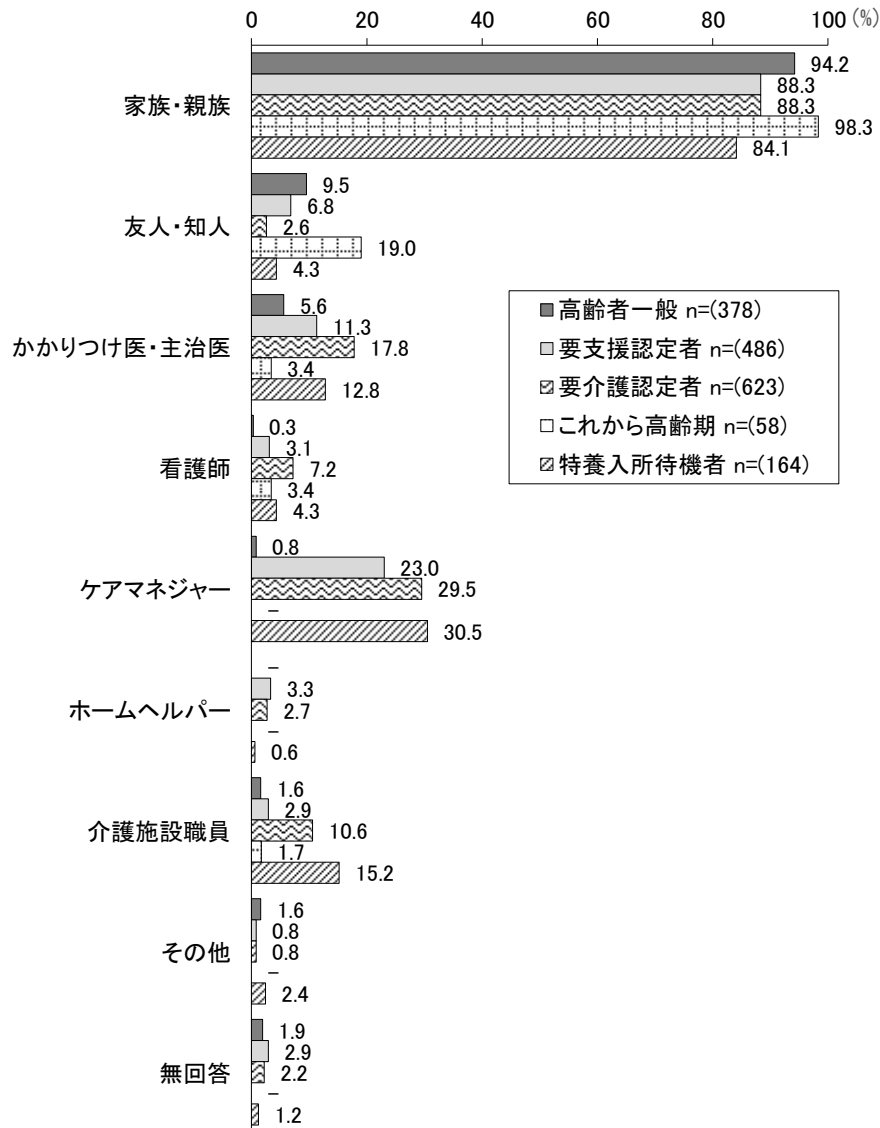
○年代別にみると、高齢者一般、要支援認定者、要介護認定者ともに、『後期高齢者』は、「話し合っている」が『前期高齢者』と比べて高くなっている。

	n	(%)					(%)	
		詳しく話し合っている	一応話し合っている	ほとんど話し合っていない	話し合っていない	無回答	話し合っている	話し合っていない
高齢者一般	1,516	1.4	23.5	26.5	45.0	3.6	24.9	71.5
前期高齢者(65-74歳)	643	0.9	20.5	27.1	49.3	2.2	21.5	76.4
後期高齢者(75歳以上)	850	1.6	25.9	26.0	42.2	4.2	27.5	68.2
要支援認定者	1,280	3.2	34.8	26.6	32.4	3.0	38.0	59.1
前期高齢者(65-74歳)	116	1.7	28.4	32.8	36.2	0.9	30.2	69.0
後期高齢者(75歳以上)	1,110	3.4	34.9	26.4	32.3	3.1	38.3	58.7
要介護認定者	1,344	7.3	39.1	26.0	23.9	3.7	46.4	49.9
前期高齢者(65-74歳)	133	3.0	40.6	27.1	28.6	0.8	43.6	55.6
後期高齢者(75歳以上)	1,153	7.9	39.1	25.9	23.3	3.7	47.0	49.3

②話し合っている相手

○ “話し合っている” と回答した人の話し合っている相手は、いずれの調査でも「家族・親族」が最も高く、8割半ばから全数近くとなっている。要支援認定者、要介護認定者、特養入所待機者では、次いで「ケアマネジャー」が高くなっている。

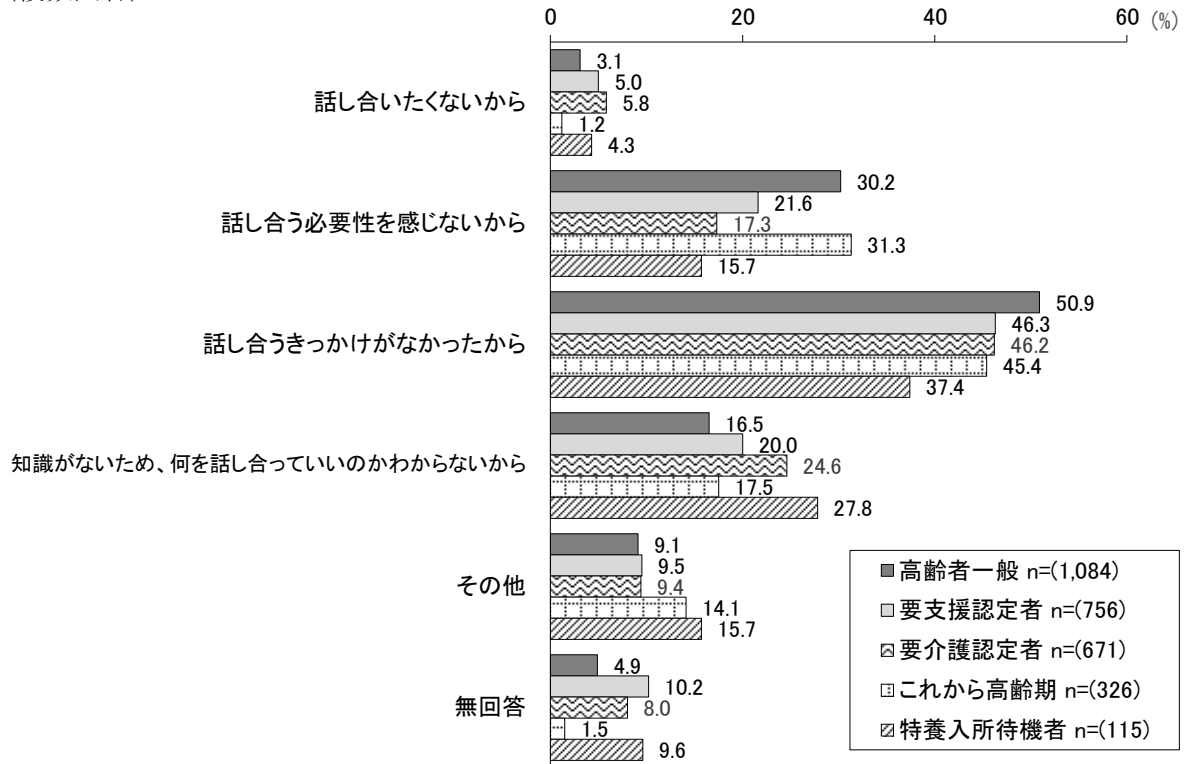
(複数回答)



③話し合ったことがない理由

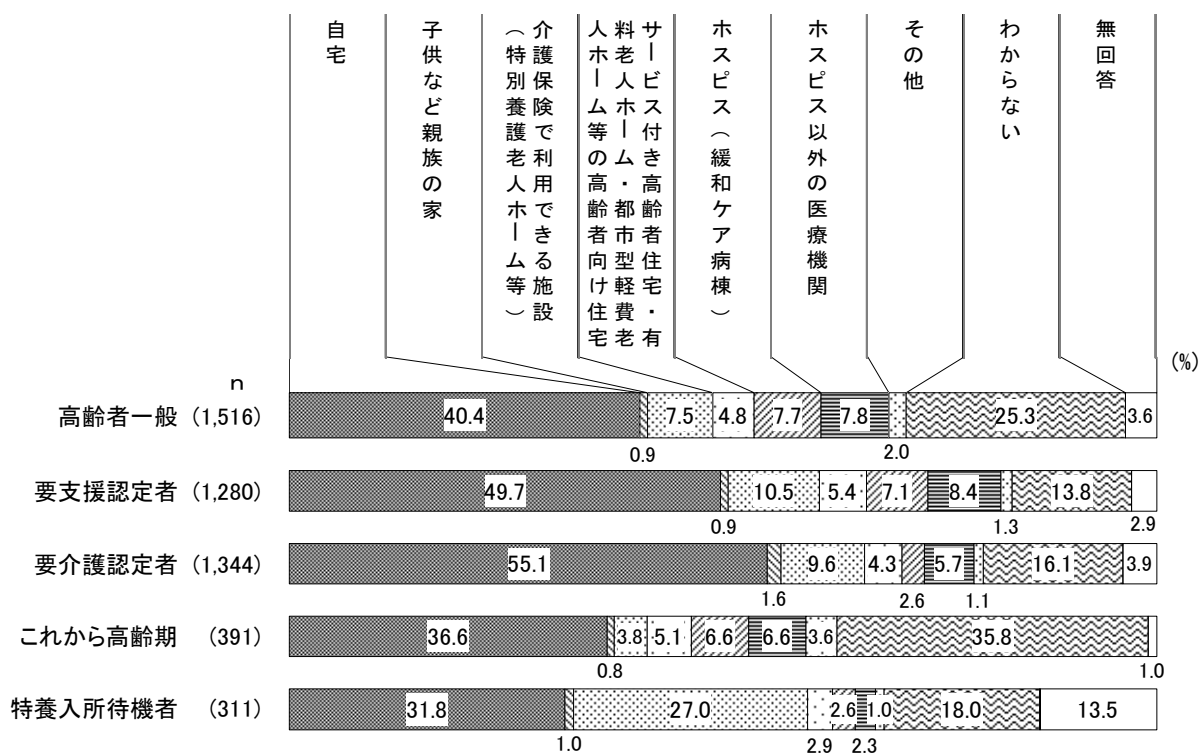
○話し合っていないと回答した人の理由は、いずれの調査でも「話し合うきっかけがなかったから」が最も高く、高齢者一般で50.9%、要支援認定者で46.3%、要介護認定者で46.2%、これから高齢期で45.4%、特養入所待機者で37.4%となっている。

(複数回答)



④人生の最期を迎えたい場所

○いずれの調査でも「自宅」が最も高く、高齢者一般で40.4%、要支援認定者で49.7%、要介護認定者で55.1%、これから高齢期で36.6%、特養入所待機者で31.8%となっている。



[世帯構成別 / 高齢者一般]

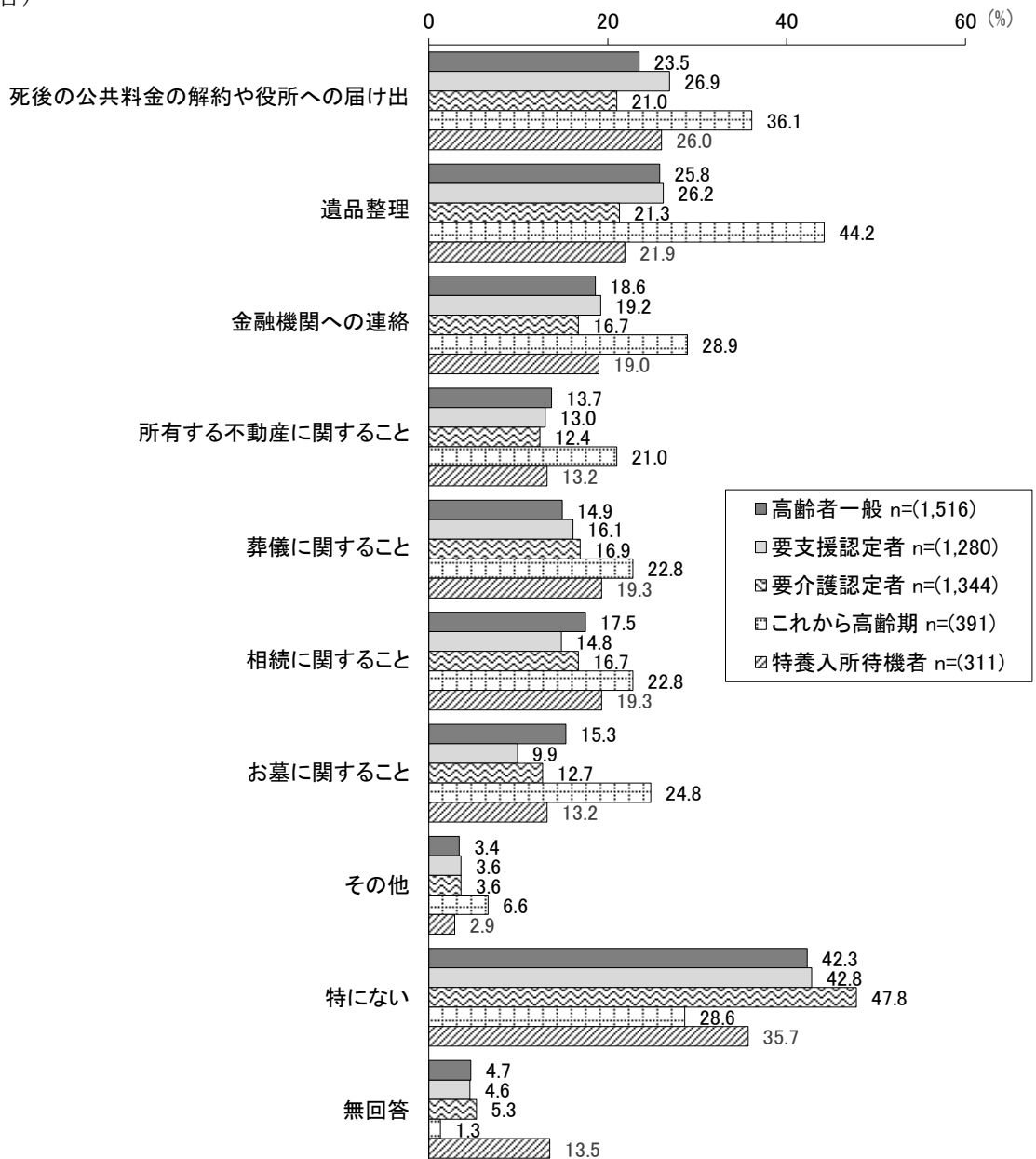
○世帯構成別にみると、『1人暮らし』は、「自宅」が約3割で全体と比べて低くなっている。

	n	自宅	子供など親族の家	介護保険で利用できる施設 (特別養護老人ホーム等)	老人ホーム等の高齢者向け住宅 (有料老人ホーム・高齢者向け住宅)	サービス付き高齢者住宅・有老人ホーム・都市型軽費老老	ホスピス (緩和ケア病棟)	ホスピス以外の医療機関	その他	わからない	無回答
高齢者一般	1,516	40.4	0.9	7.5	4.8	7.7	7.8	2.0	25.3	3.6	
1人暮らし	489	32.1	1.6	7.4	5.9	7.8	8.0	2.0	31.5	3.7	
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	404	44.8	-	7.2	5.4	6.4	7.9	1.5	23.5	3.2	
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	95	42.1	2.1	7.4	10.5	6.3	4.2	3.2	21.1	3.2	
子との2世帯	269	46.8	0.4	10.8	2.2	10.8	6.7	0.7	19.0	2.6	
その他	218	40.8	0.5	4.1	2.8	7.3	10.1	3.7	26.1	4.6	

⑤終末期・死後の手続等で不安なこと

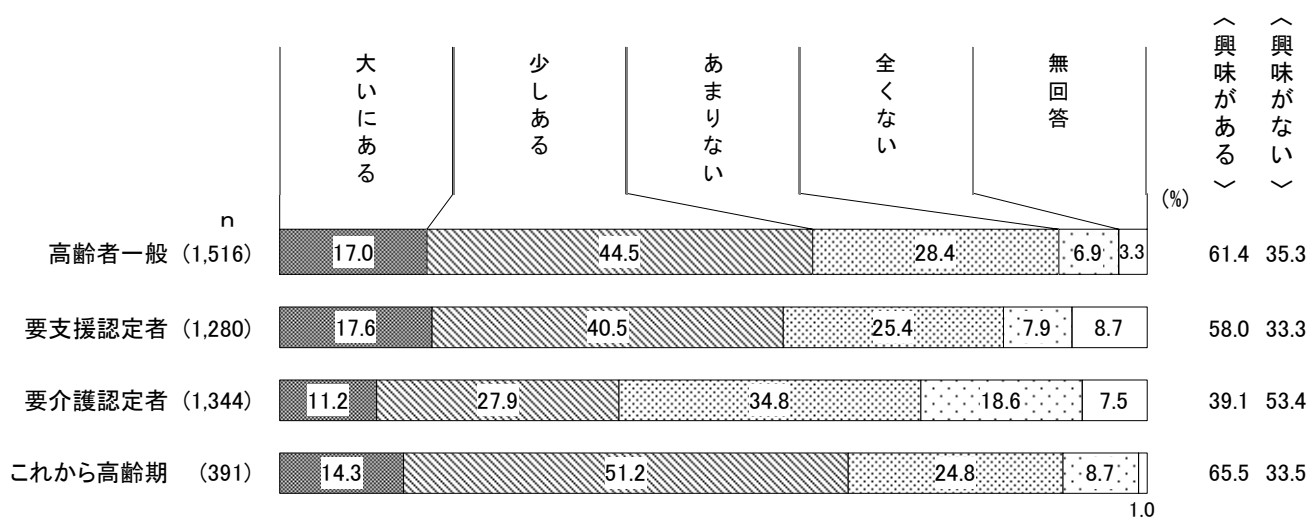
- 高齢者一般では、「特にない」が42.3%となっている。不安なこととしては、「遺品整理」(25.8%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(23.5%)が上位に挙がっている。
- 要支援認定者では、「特にない」が42.8%となっている。不安なこととしては、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(26.9%)、「遺品整理」(26.2%)が上位に挙がっている。
- 要介護認定者では、「特にない」が47.8%となっている。不安なこととしては、「遺品整理」(21.3%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(21.0%)が上位に挙がっている。
- これから高齢期では、「特にない」が28.6%と他の調査と比べて低くなっている。不安なこととしては、「遺品整理」(44.2%)、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(36.1%)、「金融機関への連絡」(28.9%)、「お墓に関すること」(24.8%)が上位に挙がっている。
- 特養入所待機者では、「特にない」が35.7%となっている。不安なこととしては、「死後の公共料金の解約や役所への届け出」(26.0%)、「遺品整理」(21.9%)が上位に挙がっている。

(複数回答)



⑥終活への興味

○“興味がある”（「大いにある」と「少しある」の合計）は、高齢者一般で61.4%、要支援認定者で58.0%、要介護認定者で39.1%、これから高齢期で65.5%となっている。



[性・年代別 / 高齢者一般]

○性・年代別にみると、『女性』は、“興味がある”が『男性』と比べて高くなっている。

	n	興味レベル (%)					興味有無 (%)	
		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	興味がある	興味がない
高齢者一般	1,516	17.0	44.5	28.4	6.9	3.3	61.4	35.3
男性 / 前期高齢者	307	13.4	40.1	36.5	9.1	1.0	53.4	45.6
男性 / 後期高齢者	332	11.4	39.2	34.9	10.2	4.2	50.6	45.2
女性 / 前期高齢者	335	19.4	56.7	19.7	3.6	0.6	76.1	23.3
女性 / 後期高齢者	511	21.5	42.5	25.4	5.3	5.3	64.0	30.7

[要介護度別 / 要介護認定者]

○要介護度別にみると、『軽度』は、“興味がある”が42.6%で、『中重度』(33.8%)と比べて高くなっている。

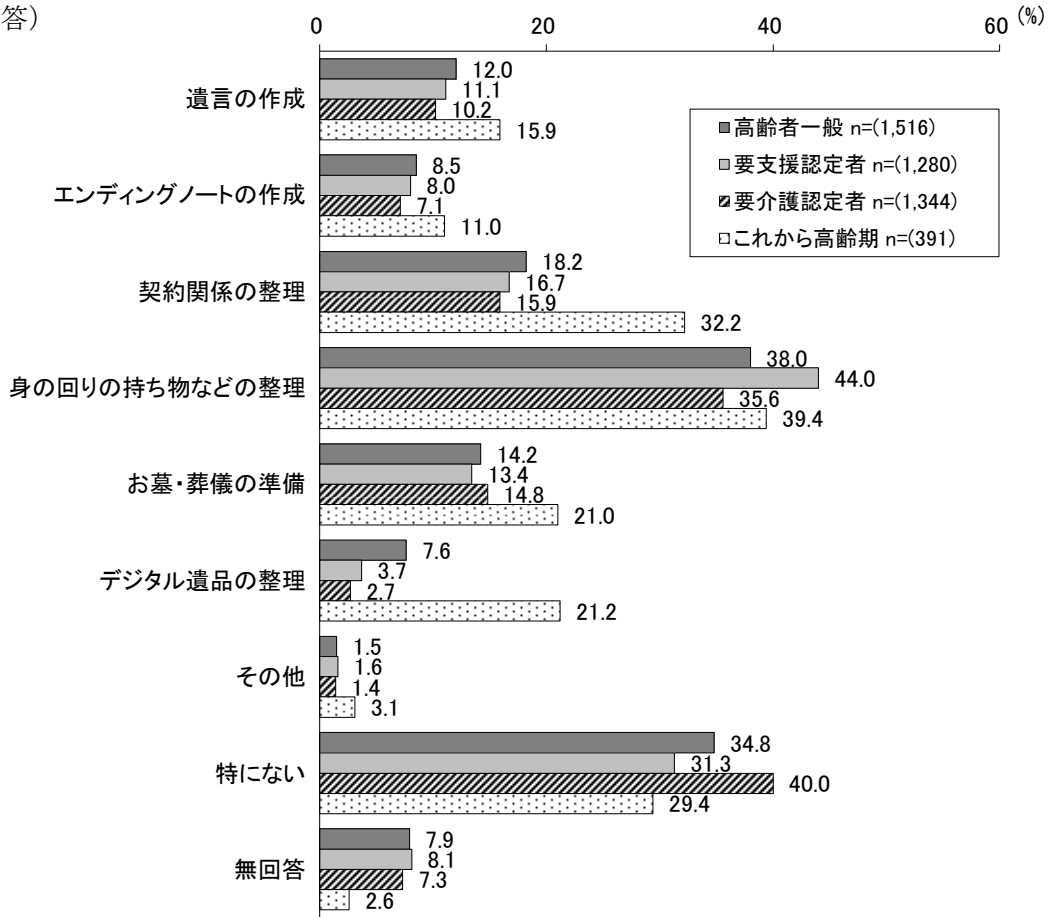
	n	興味レベル (%)					興味有無 (%)	
		大いにある	少しある	あまりない	全くない	無回答	興味がある	興味がない
要介護認定者	1,344	11.2	27.9	34.8	18.6	7.5	39.1	53.4
軽度	802	13.1	29.6	33.7	16.2	7.5	42.6	49.9
中重度	542	8.3	25.5	36.5	22.1	7.6	33.8	58.7

⑦終活に関して手助けが必要なこと

○いずれの調査でも「身の回りの持ち物などの整理」が上位に挙がっている。

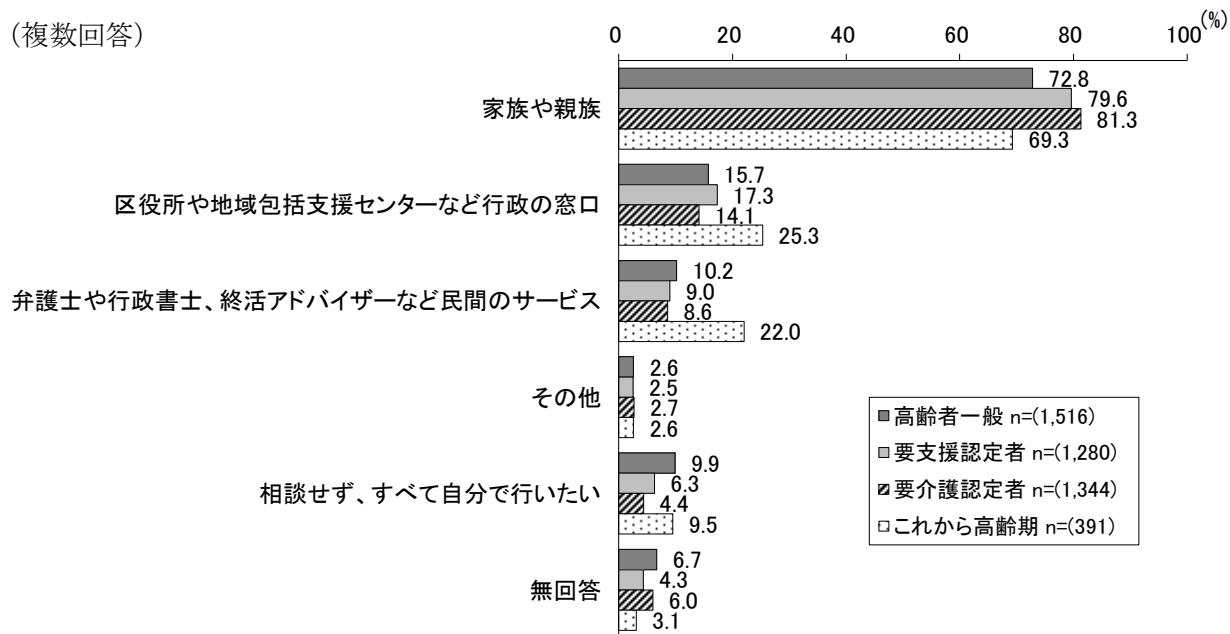
○これから高齢期では、「契約関係の整理」が32.2%、「デジタル遺品の整理」が21.2%、「お墓・葬儀の準備」が21.0%と他の調査と比べて高くなっている。

(複数回答)



⑧終活に関して希望する相談先

- いずれの調査でも「家族や親族」が最も高く、約7割から8割超となっている。
- これから高齢期では、「区役所や地域包括支援センターなど行政の窓口」が25.3%、「弁護士や行政書士、終活アドバイザーなど民間のサービス」が22.0%と他の調査と比べて高くなっている。



⑨終活に関して区へ求める支援

- これから高齢期では、「専門の相談窓口の設置」、「終活に関するセミナーやイベントの開催」、「弁護士など民間事業者への相談料等に対する補助」、「遺言書やエンディングノートなどの保管場所の登録サービス」が他の調査と比べて高くなっている。また、「特にない」が他の調査と比べて低くなっている。

